パーフェクト・ブルー

あるたみら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パーフェクト・ブルー

【Ｎコード】
Ｎ５８９９Ｄ

【作者名】
あるたみら

【あらすじ】
『死族』と呼ばれるモノと、それを狩る者との戦い。そしてその戦いに巻き込まれていく少女の成長のお話です。

第1話　自殺志願

強い風が私の身体に吹き付けてくる。

当然だココは夜のビルの屋上なんだから。

コレで全部終わる。辛いことも、なにもかも……。

「…なんで生まれてきちゃったんだろ……」

思わず独り言が漏れてしまった。

自分の言葉なのに、まるで自分の言葉じゃ無いみたいに……心に突き刺さる。

生きているのが辛い。

イジメを苦にしての自殺なんて……悔しい！

……でも、もう……

私はどうにかフェンスの向こう側まで行くと、ビルの端に座り込んでしまった。

（コチラ側は、もう今までの日常とは違うんだ……。）

ただフェンスを越えただけなのに、そんな風に感じてしまう。

死をすぐ側に感じる……。

ココは私だけの世界……。

私だけの……。

「やあ、自殺かい？」

不意に声をかけられた。

（……え？）

……私だけの世界なのに……

……私だけの世界だったのに……

……どうして人が居るの？

声が聞こえた方を見ると、私と同じ様にビルの端に腰掛ける男が居た……。

「飛び降りは止めておいた方が良いよ。

結構酷い状態になるから。」

ボロ布の様な、黒いローブの様な物を身に纏った男だった。

こんな人は居なかったはずだ。

いくら暗くても、見落とすはずがない。

「オススメ出来ないなぁ。
取り敢えず他の方法を考えたら？」

そう言いながら、男が近付いてくる。

風が吹き付けるなか、平然と歩いて来る。

「イヤ、来ないで……。」

言いながら私は後ずさっていた。

怖かった。

さっきまで死のうと考えていたのに、おかしな事だが。

近付いて来るその男が怖かった。

「あっ！」

後ずさっていた私の手から、不意にコンクリートの感触が消えた。

踏み外してしまったのだ。

街の光が、ゆっくりと私の目に入ってくる。

（落ちる！）

そう思うと、ギュッと目をつぶってしまう。

目をつぶる瞬間、男が飛び掛かって来るのが見えた。

（これが最後にみた光景になるのか…。）

妙に冷静になりながら、そんな事を考えていた。

第1話　自殺志願（後書き）

スイマセン。まだファンタジーっぽく無いですね。

第2話　比翼（前書き）

今回は『謎の男』視点で書かれていますので御注意下さい。

第2話　比翼

（マズい！）

目の前の自殺志願少女の体が、夜の闇に飛び出した。

（ココに着いた早々、いきなり目の前で自殺なんかされちゃ縁起悪すぎだよ）

そう思いながら、彼女の身体に必死で飛び付いた。思った以上に……重い！！！

引きずられる様にして俺の身体も落ちかかるが、危ういところでフェンスを掴む事が出来た。俺は身体を起こすと、そのまま一気にフェンスの内側へと飛び込んだ。

多少の高さは有ったが、まぁ問題は無い。３m程度だ。

暫くすると、少女がゆっくりと目を開いた。近くで見ると、つぶらな瞳の可愛らしい少女だった。高校生ぐらいか？

（さっき抱きかかえた時の感触といい、なかなか将来有望そうな感じじゃないか）

そんな事を考えていると、少女が口を開いた。

「どうして？」

少女が疑問を投げ掛けてくる。

「どうして……助けたんですか？」

……彼女が疑問を投げ掛けてきた。

「いや、落ちそうだったし」

間の抜けた返事だと自分でも思うが、咄嗟に上手い言葉が思い浮かばなかったからしょうがない。

「どうして……」

また、少女が口を開く。

「……どうして、生きていなくちゃいけないの？」

「そりゃ、生きていれば良い事が有るって言うか。……ほら、明日は明るい日って書くだろ？」

なかなか上手い言葉が見つからない。そもそも、俺にそんな事を言う資格が有るのか？

「明日なんて……あのまま死なせてくれれば良かったのに」

そう言った彼女の表情は、見ているこちらが辛くなる様な哀しい表情だった。

こんな表情をさせていて良い筈が無い。そう思った俺の口から、自分でも思いもよらない言葉が出た。

「じゃあ、この先の君の人生を……俺にくれないか？」

「…？」

彼女は不思議そうな顔をしている。

まあ、分からなくも無いが。しかし彼女が不思議そうな顔をしていたのは、俺の思っていた様な理由では無かった。

「…私を必要としてくれるの？」

なんて……哀しい事を言う子なんだろう。俺は本気で彼女を救いたいと思った。

だから……。

「あぁ、キミが必要だ」

彼女には分からないだろう、言葉以上の重い意味が有るこの言葉を……俺は彼女に伝えた。

彼女を、俺の《比翼》にする事にした……。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5899d/

パーフェクト・ブルー

2010年12月7日03時35分発行